園名

二葉つぼみ保育園

とうきょう すくわく プログラム
こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

テーマ

ボール

設定の理由

ボールは、0 歳児から身近にある遊具で手に触れる機会が多い。ボールは転がったり、投げたり、握ったりと変化に富んでいる。乳児期にはボールの動きによって自然と体が動き、触れたり、試したりしている。その姿から子どもたちの興味や関心を読み取り、一緒に遊びながら環境や保育者の援助について探り、好奇心と探究心（わくわく）を育むことができるのではないかと考えた。

対象年齢

2 歳児

活動事例①

ねらい　色々な高さの穴にボールを入れてみる

活動のねらい

いろいろな高さの穴に両手や片手で投げ入れたり、穴を覗きながら入れたり、穴の中に置いたり等自分の好きな穴に様々なやり方でボールを入れる。

環境の設定

・高さ 42 ㎝のゲームボックスを 3 段重ねる
・八つ切り画用紙にロボットの絵を描き、ゲームボックスの 3 段目のところに貼り付けた。
・直径 20 ㎝のボール 15 個、直径15㎝ 5 個のボールを 2 種類用意する。

探究活動

一番高い穴に両手でボールを持って背伸びをして入れてようとしていた。入ると、「入ったね」と嬉しそうに言い、保育者が拍手をして「すごいね。見てたよ。」と伝えると、繰り返し背伸びをして入れて楽しんでいた。

少し離れたところから、両手で投げて高いところの穴に入れようとしたり、小さいボールを選んで片手で投げて入れようとしたりしていた。

保育者の振り返りと気づき

・いろいろな穴の高さがあったことで、入れてみたいと思う穴から入れていた。
・ボールが2種類あったことで自分の好きな大きさを選んで使うことができていた。
・自分の遊んでいる姿を見守り、一緒に喜んでくれる保育者がそばにいたことで、繰り返しやってみようと思うことができた。また、その姿を近くにいる友達が見られる環境があったからこそ、まねしてやってみようとする姿もあった。

活動事例②

ねらい　いろいろな斜面でボールを転がして遊ぶ

活動のねらい

いろいろな斜面を使って、ボールが転がる面白さを感じて楽しむ。

環境の設定

・高さ 40 ㎝の長い滑り台、高さ 40 ㎝の斜面台を並べて用意した。
・直径 20 ㎝のボール 20 個用意した。

探究活動

両手でボールを持ち、長い滑り台の斜面を転がし、転がる様子を見てからボールを追いかけていた。

繰り返し斜面台で転がしながら遊ぶと、転がるタイミングに合わせて走り出し、ボールを追いかけて楽しむ姿が見られた。

保育者の振り返りと気づき

・同じ高さでも短い斜面、長い斜面などを用意したことで、子どもが選んで転がすことができた。
・転がるボールを見て「あっちまで行った」と感じたり、ボールを転がすタイミングでボールを追いかけてみたりと、一人ひとりがいろいろな楽しさを感じていた。
・十分な時間と場を用意したことで、繰り返し遊び、自分の遊びが満足すると、他児への興味もでてきて、じっと見たり、そっとそばによって一緒に遊ぼうとしたりすることも分かった。

活動事例③

ねらい　カラーボールを入れて、転がっていく面白さを味わう

活動のねらい

・穴からボールを入れて転がし、転がしたところをのぞいてみたり、下からボールが出てくる様子を見たりする。
・反対側にいる友達や保育者と一緒に同じように穴に入れながら、関わりをもち遊ぶ。

環境の設定

・2ℓ のペットボトルを6本繋げたものを4本用意した。
・段ボールに穴をあけてジグザクになるように4本のペットボトルを通した。
・段ボールの両側に7、5㎝の穴を開けた。
・カラーボール5、5㎝のものを30個用意した。

探究活動

ボールを一つ選び穴に入れ、転がる様子を穴から覗いていた。下まで転がる様子を確認すると両手にカラーボールをもち 2個転がしていた。

2個転がすと抱えられるだけボールをもってきて（5個）次々に入れていた。保育者が「いっぱい出てきたね」と言うと同じように5個ボールを入れて、今度は前面から出てくる様子を見ていた。

友達が反対側から入れ、同じようにボールが下から出てくると「もう一回やろう」と言って二人で同じようなタイミングで転がして笑いあっていた。

保育者の振り返りと気づき

・透明なペットボトルで作成したことでボールが転がる様子がよく見ることができた。また、段ボールの両側に穴を作ったことで、保育者や友達と一緒に遊ぶ楽しさも感じることができた。
・近くで保育者が見て、表情や仕草から子どもの感じていることを読み取り簡単な言葉にして楽しさに共感することで、「今度はこうしてみよう」などと、遊びの幅が広がっていくことが分かった。
・傾斜の角度やボールの素材によって転がる速さも変わるので、今後も工夫ができる教材だということも感じた。